

平成 28 年 8 月 2 日

浜田市議会議長 西 田 清 久 様

議員名 西 田 清 久



調査研究活動報告書

下記のとおり調査研究のため視察等を行ったので、その結果を報告します。

記

1. 期 間 平成28年6月7日～6月8日

2. 視察先及び研究テーマ

① 森と人の健康ネットワーク主催まちづくり講座

場所：東京都渋谷区神宮前（ブルックスカフェ内）

講座； 隈研吾 氏：「作品の解説と設計の基本思想」

講座； 稲本正 氏：「森林資源の活用と人の健康について」

② 「東京おもちゃ美術館」

日本グッド・トイ委員会の多世代交流支援事業について

（廃校の活用、木育の推進、市民立の施設）

場所：東京都新宿区四谷（四谷ひろば内）

東京おもちゃ美術館副館長、総合プロデューサー：星野太郎 氏

3. 参加者 西田清久

4. 調査経費 46,300 円

5. 調査研究活動の概要

別紙



● 森と人の健康ネットワーク主催まちづくり講座

6月7日 16時30分～19時

・隈研吾氏「作品の解説と設計の基本思想」

新東京国立競技場の設計者の隈研吾氏から、これまでに手掛けてきた作品の解説と基本思想について、説明を受けた。

主な作品：高知県梶原町（木橋ミュージアム、まちの駅「ゆすはら」）

宮城県石巻市（北上川運河交流館）

福岡県太宰府市（スターバックス大宰府店）

栃木県（馬頭町広重美術館、石の美術館）

東京都（歌舞伎座、浅草文化観光センター、サニーヒルズ JPN）

神奈川県鎌倉市（banboo house）等々、

その他 2020 年東京オリンピック新国立競技場の基本思想など、日本人の心と木、光、水、石、土、里山などの自然環境との関わりで、まちづくりの中での建築設計に携わっているという。

・稲本正氏「森と人の健康について」

樹木は、地球上でもっとも生命を維持している生きものの一つであるが、その根拠は、樹木は外来からの微生物や太陽光からのフリーラジカルから身を守るために活性酸素と抗酸化物質を自ら生成しているから。

法隆寺の五重塔の心柱に使われている木は、樹齢350年のヒノキであるが、樹齢350年の木が1300年経った現在ももち続けている理由は、木がCO₂を体内に取り込んで炭素化し、腐りにくく強くなっているため。

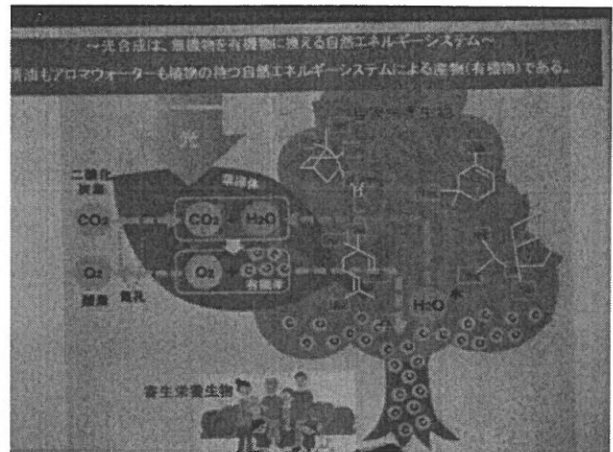
森に入ると心が穏やかになったり、すっきりする。

心身の健康に森は不可欠。

木の家は第2の森だ！

感想

隈研吾氏の建築・設計に携わる中で、建築物は地域の歴史や気候、風土、人々の思いなどを加味したうえで、まちづくりにフィットさせる。自然界の営みや自然素材を重要視し、自然をリスペクトして建物をつくるという考え方に大変感銘をうけた。島根県石見地方は、8割以上を森林が占めており、広く多くの里山が存在している。本来、里山には様々なエネルギーを生産、供給する資源や仕組みがあり、隈研吾氏が新国立競技場の設計に込めた建築哲学の中の、環境に負荷をかけない「負ける建築」という概念は、今後の地方の里山の創生に向けて良い方向転換をもたらすことに大いに期待したい。



講座の様子

● 東京おもちゃ美術館

NPO 法人日本グッド・トイ委員会が運営し、赤ちゃんからお年寄りまでの多世代が豊かな出会いと楽しみを体感できる「多世代交流」ミュージアム。

廃校になった都心の小学校校舎を活かし、子どもと大人が良いおもちゃに触れ交流できる施設となっている。また 300 名を超えるボランティアスタッフ「おもちゃ学芸員」をはじめ、地域の多くの方々と協力して運営しており、年間 14 万人が訪れる施設となっている。

特徴① 東京おもちゃ美術館は、「一口館長制度」に基づくお金の寄付と、ボランティアスタッフである「おもちゃ学芸員」の時間の寄付によって成り立っている「市民立」のミュージアム。

特徴② 親と子ども。そのコミュニケーションをより円滑にすることによって得られる、共感や信頼、そして豊かな感性を創出できるよう、グッド・トイやおもちゃ学芸員が応援している。

特徴③ 「多世代交流の館」として、0 歳から 100 歳まで、さまざまな世代の方が、おもちゃを媒介に自然と楽しいコミュニケーションがとれる「老若男女共同」の環境を提供している。

特徴④ 洋の東西を問わず、和の色や木の文化、それに伝承遊びなど、遊びを通じて感じ、そして、楽しむことが出来る「文化」や「知恵」を絶やさないよう次世代に語り継いでいる。

感想

東京おもちゃ美術館を視察した経緯は、昨年から交流のある岐阜県高山市の「オークビレッジ」の副社長からの紹介である。現在、浜田市の森林資源の中の広葉樹を活用したプロジェクトを推進する中、広葉樹がどのように商品化され使われているのか。また、都市部の中でのニーズはどうなのか。教育（木育）にどんな使い方をされているのか等の調査項目で視察を行なったが、実際に現場を見て、担当者の話を伺うと、このNPO 法人が運営する東京おもちゃ美術館の理念や地域の多くの人々の次世代教育の想いが、しっかりと伝わってきた。

